

推奨順	成分名	規格 (mg)	薬価 (円)	用法・用量(日)	上段;1日量(mg) [下段];1日薬価(円)			臨床成績・その他注意
1	ベザフィブラート	100 200	10.1 10.1	1日2回 1回200mg	200 [20.2]	400 [20.2]	600 [40.4]	有効性 ・全死亡や心血管死、脳卒中や心筋梗塞において、ベザフィブラート、クロフィブラートの有効性の差は5%以下を臨床的に同程度と評価した。 TG低下において、ペマフィブラート、フェノフィブラート間でその有効性は非劣性が認められた。 安全性 ・筋疾患の有害事象発生においてベザフィブラート、フェノフィブラート間で統計的な有意性は認められなかった。 同等量設定 同等量は、Arai2018におけるペマフィブラートとベザフィブラートで同程度と考えられる効果が起こる薬剤量、その他は常用量換算より設定し、ベザフィブラート:フェノフィブラート:クロフィブラート:ペマフィブラート= 400mg/日:160mg/日:1500mg/日:0.4mg/日とした。 用量調整 ・ベザフィブラート;添付文書では $50 < Ccr < 60$ では 200mgX1、 $60 \leq Ccr$ では 200mgX2 を推奨。 ・ペマフィブラート;0.2mg/日使用と0.4mg/日使用において10%以下のTG低下効果であり同程度効果と考えられる報告がある。このため、ペマフィブラート0.4mg/日とベザフィブラート200mg/日が同等量と考える事もできる。 限界 ・現在フィブラート系薬剤間における有効性・安全性を評価した報告は少ない。 ・ペマフィブラート;他のフィブラート系とは異なる薬理作用を有している。他のフィブラート系薬剤にて効果が不十分である場合の選択としては使用しても良い。 新たな他の薬剤と比較した報告が期待される。 優先順位 ・有効性・安全性におけるエビデンスが最も豊富であった薬剤はベザフィブラートであった。脂質異常症の治療にかかる費用対効果の比較を行うとベザフィブラートが最も優れていた。
2	クロフィブラート	250	8.7	1日2-3回 1回750mg-1500mg	750 [26.1]	1500 [52.2]	2250 [78.3]	
3	フェノフィブラート	53.3 80	8.5 11.2	1日1回 1回106.6-160mg	80 [11.2]	160 [22.4]	240 [33.6]	
4	ペマフィブラート	0.1	33.1	1日2回 1回0.1-0.2mg	0.2 [66.2]	0.4 [132.4]		

2019年5月初版 2022年5月改訂第5版(2022.4薬価改訂版)

